



ファインレベラー

FL-2100

PAT.PEND

計算された矯正波形機構 !!

水平に圧下しても広範囲の材料を矯正できます。
レベリング+残留応力の低減+アニール効果が期待できます。



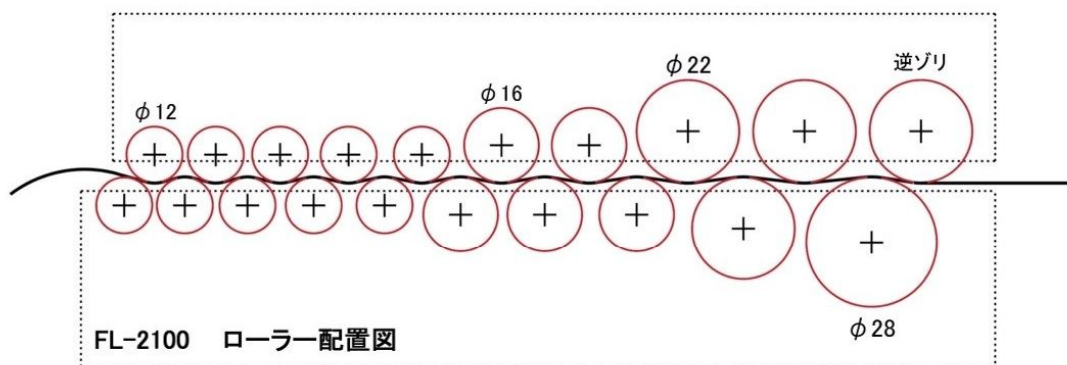
異径ローラー構成

PRESS GIKEN, INC.

Osaka, Japan Tel 06-6911-1191 <http://www.press-giken.co.jp/>

機構説明

精密レベラーの矯正理論は、15本以上のローラーの間を波形に材料が通過する間に、降伏点応力と残留応力に変化を与えて、材料の巻きグセを除去し平坦になることが実証されている。その過程は、入口は矯正量を大きく、しだいに小さくする事が適正であると理論付けられている。その過程を、直線で結んだ位置にローラーを配置すると、入口ローラーは小さく出口ローラーは大きくなり、そのピッチ間もそれぞれ違ってくる。そのローラー配置図が下図である。ローラーピッチ間とローラー径がしだいに変化している。この場合、従来のレベラーでは上ローラーフレームを傾けて、入口側は低く出口側は高く調節していたものが、水平状態で矯正量を調節するだけで、適正な矯正ができるから操作性は抜群に良くなります。



主仕様

材料巾	100 mm	ロール本数 20本 (逆ゾリローラー含) 小径ローラーはバックアップ付
板厚	0.3~1.0 mm	
ライン速度	max 20 m	ヘッドアップ機構装備
モーター容量	0.75 kw-4p	機械重量 280 kgf

※ 精密レベラーは材料条件により、適応する機種の設定が必要な場合があります。

